

平成 30 年 11 月 29 日

総務民生常任委員会  
委員長 吉津 弘之 様

総務民生常任委員 橋本 憲治

### 総務民生常任委員会行政視報告書

下記の日程で行政視察を実施しましたので、別紙のとおり報告します。

#### 記

#### 1. 視察期日及び視察先

平成 30 年 11 月 5 日（月）

愛知県東海市 「いきいき元気推進事業について」

11 月 6 日（火）

三重県津市 「ユニバーサルデザインのまちづくり」

11 月 7 日（水）

奈良県橿原市 「子ども総合支援センターの取り組みについて」

#### 2. 視察参加名簿

委員長 吉津 弘之

副委員長 江原 達也

委員 三輪 徹

委員 長尾 実

委員 岩藤 睦子

委員 橋本 憲治

委員 綾城 美佳

以上 7 名

#### 3. 視察報告・所感 別紙

(別紙)

|       |                           |  |    |
|-------|---------------------------|--|----|
| 視察先   | 愛知県東海市                    |  |    |
| 視察日時  | 平成30年11月5日(月) 14:00~16:00 |  |    |
| 視察項目  | いきいき元気推進事業                |  |    |
| 対応部署名 | 東海市市民福祉部健康推進課             |  |    |
| 自治体概要 | 面積                        |  | 人口 |
|       |                           |  |    |

視察内容

○トマト de 健康づくりに取組まれた目的や経緯について  
 東海市では市民の平均寿命が低く (⑥)、医療費も高齢者ほど高額 (⑧) その上健康意識が低い (⑨)

⑥

東海市の現状  
 市民の健康状態…平均寿命が低い！！

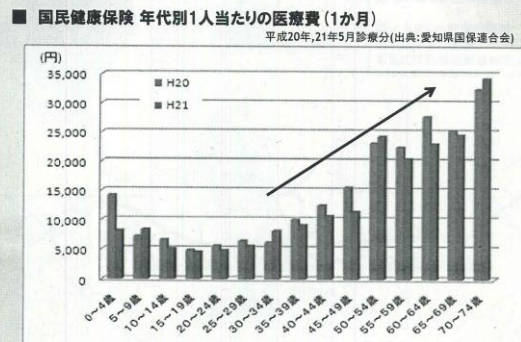
■ 平均寿命

平成17年市区町村別生命表の概況

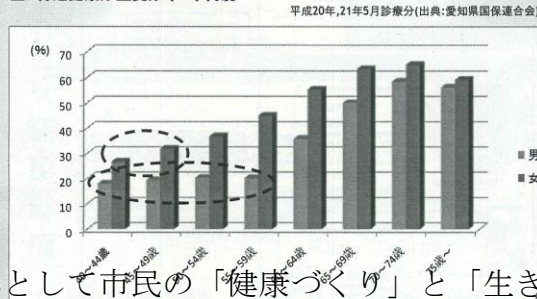
| 男性 |      |      | 女性 |      |      |
|----|------|------|----|------|------|
| 順位 | 市町村名 | 年齢   | 順位 | 市町村名 | 年齢   |
| 1  | 日進市  | 80.7 | 1  | 日進市  | 87.0 |
| 2  | 長久手町 | 80.5 | 2  | 尾張旭市 | 86.6 |
| 3  | 豊田市  | 80.4 | 3  | 長久手町 | 86.6 |
| 4  | 三好町  | 80.3 | 4  | 阿久比町 | 86.4 |
| 5  | 東郷町  | 80.1 | 5  | 緑区   | 86.1 |
| 11 | 大府市  | 79.6 | 10 | 東浦町  | 85.9 |
| 12 | 東浦町  | 79.6 | 21 | 知多市  | 85.7 |
| 27 | 知多市  | 79.3 | 27 | 大府市  | 85.6 |
| 43 | 半田市  | 79.1 | 43 | 東海市  | 85.4 |
| 52 | 南知多町 | 78.9 | 46 | 武豊町  | 85.4 |
| 61 | 常滑市  | 78.6 | 54 | 半田市  | 85.2 |
| 67 | 美浜町  | 78.4 | 56 | 南知多町 | 85.2 |
| 68 | 東海市  | 78.4 | 68 | 常滑市  | 84.9 |
| 78 | 中村区  | 77.5 | 78 | 菟目寺町 | 83.7 |
|    | 県全体  | 79.1 |    | 県全体  | 85.4 |

⑧

東海市の現状  
 医療費の状態…高齢者ほど高額！！



■ 特定健康診査受診率:年代別



この為、全市的な取組みとして市民の「健康づくり」と「生きがいづくり」を掲げ、市の今ある「社会資源を活用」して、健康分野だけでなく都市基盤や生涯学習、生涯スポーツなど様々な分野からの連携を図り検討。

○いきいき元気推進事業開始  
 運動応援メニューと食生活応援メニューに分け

運動応援メニューでは、それぞれの体格に合わせた運動量を星の数に合わせて取組める様にして、無理のない、長続きする様な運動量に設定。

食生活応援メニューでは、エネルギー、野菜、塩分、食事バランス等を考え、各医師会との事業協定によりメディカル面からのサポートを受けている。

平成 26 年 4 月 10 日、東海市とカゴメ株式会社が連携し「トマトを通して市民一人ひとりの健康づくり及び地域の活性化に資する」プロジェクト事業の開始。

トマト給食、トマト新聞、トマト de 健康フェスティバル更にはトマトジュースの出る蛇口がイベントを盛り上げた。

事業の取り組みの効果は次の通り

#### 所 感

今ある施設を利用しての運動応援メニュー、「カゴメ」のふる里による食生活応援メニュー、これなら少ない予算で大きな収穫ができそう。

長門市にも当てはまるものはないか

探し出すことも必要か？

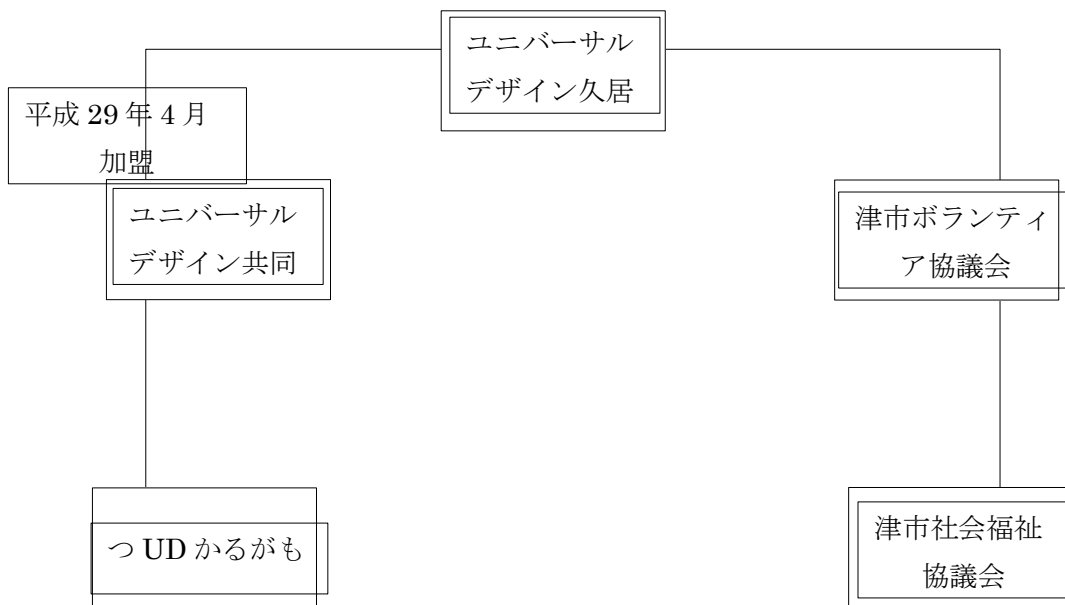
(別紙)

|       |  |  |    |
|-------|--|--|----|
| 視察先   | 三重県津市                                  |  |    |
| 視察日時  | 平成 30 年 11 月 6 日 (火) 13 : 30 ~ 15 : 30 |  |    |
| 視察項目  | ユニバーサルデザインのまちづくりについて                   |  |    |
| 対応部署名 | 津市政策財務部政策課                             |  |    |
| 自治体概要 | 面積                                     |  | 人口 |
|       |  |  |    |
|       |  |  |    |

視察内容

(1) 障害の有無、年金、性別等にもかかわらず、様々な人々が気持ちよく利用できる様、都市や環境を計画する考え方。  
障害のある人の便利さ、使い易さという視点ではなく障害の有無にもかかわらず全ての人にとって使い易い様に、はじめから意図して作られた製品、情報、環境のデザインのこと、津市では平成 20 年度に市内で、ユニバーサルデザインのまちづくりを目的に活動する団体間の連携を深めると共に、行政等の関係機関との協働によるユニバーサルデザイン連絡協議会が発足しまちづくりに参画している。

【津市ユニバーサルデザイン連絡協議会の構成】



UD まちづくり  
の会

(2) 活動内容としては以下の4つ

- ①市内小、中学校で開催されるユニバーサルデザイン講座への講師の派遣
- ②ユニバーサルデザイン発表会の開催
- ③津市職員に対するユニバーサルデザイン研修への協力
- ④各地域のイベントにおける啓発活動及び新たな活動団体の発掘

(3) 事業に伴う予算

◆平成30年度当初予算（香良洲地区を除く）

| カテゴリー               | 具体的な内容                 | 当初予算額 |
|---------------------|------------------------|-------|
| UD ネットワーク構築事業に係る委託料 | 津市ユニバーサルデザイン連絡協議会への委託料 | 150千円 |
| UD 講座講師報償金          | UD 講座を実施した団体への報償金      | 335千円 |
|                     | 発表会講師報償費等              | 30千円  |
| UD 発表会に係る経費         | 講師交通費等                 | 42千円  |
|                     | 要約筆記報償費等               | 18千円  |
| 啓発パンフレットの印刷製本費      | 啓発パンフレットの印刷<br>※5,000部 | 98千円  |
| 計                   |                        | 673千円 |

(4) 市民の反応

小、中学校でUD講座を実施することが多いが、車椅子体験やアイマスク体験等で

子供達から当事者の方の大変さを感じた。何か手伝えることはないか声を掛けた。また、UD講座を実施した団体等は毎年行なっている。

所 感

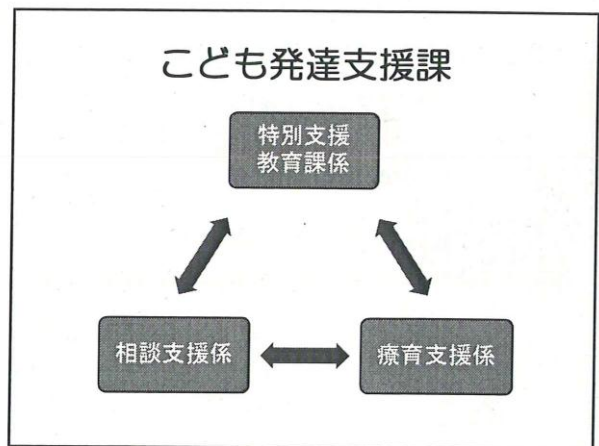
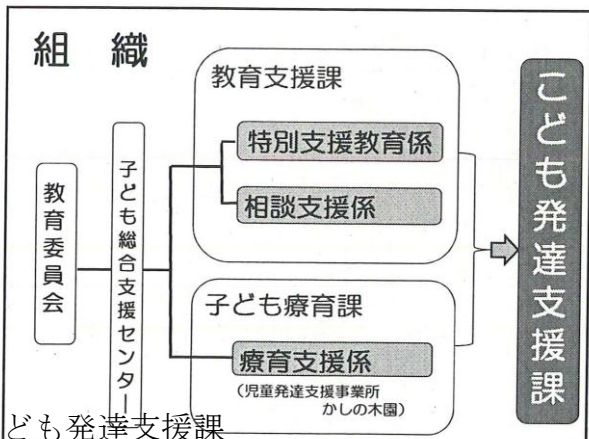
確かに目のつけ所は良いと思うが、どこの地区でもある様に担い手の高齢化が進んでおり、後継者不足が最大の課題。長門市にも計画できればいいと思われるが、同様な問題が控えており、提言するには乗り越える難題が多すぎるように思われる。

(別紙)

|       |                                    |  |    |
|-------|------------------------------------|--|----|
| 視察先   | 奈良県橿原市                             |  |    |
| 視察日時  | 平成30年11月7日(水) 10:00~11:30          |  |    |
| 視察項目  | 子ども総合支援センターの取り組みについて               |  |    |
| 対応部署名 | 橿原市教育委員会事務局、橿原市子ども総合支援センターこども発達支援課 |  |    |
| 自治体概要 | 面積                                 |  | 人口 |
|       |                                    |  |    |
|       |                                    |  |    |

視察内容

施設については、旧称学校々舎を改築し、地域の元気臨時交付金2億7600万円利用しての整備、組織は下図の通り



①特別支援教育課は次のような事業を行う

- ・発達障害者支援体制整備事業
- ・学校への発達障害に係る巡回支援訪問
- ・就学後の発達相談
- ・発達障害、特別支援教育に関する研修

②相談支援係は次のような相談を受ける

- ・就学前の児童発達相談
- ・乳幼児健診時の心理相談
- ・幼児療育教室

他に奈良県立医科大学付属病院医師等による相談を月1回程度を行ない情報交換を行う。

他に年齢別にふれあい教室（1歳6ヶ月～3歳6ヶ月）、ぐんぐん教室（3歳6ヶ月～就学迄の子供）があり、平成29年度利用者数は、それぞれ705名、394名。

③療育支援係（児童発達支援事業所「かしの木園」）

昭和50年に通園事業による心身障害時訓練施設として発足し主に

①身体不自由、集団生活になじみにくい乳幼児、言語に遅れをもつ子供たちの療育や相談

②地域に根ざした、きめ細やかな療育を通して豊かな心を育成し将来の自立への土作り等を行なっている

他に言語聴覚氏、心理士、音楽療法士による個別療育も行なっている。そして早期支援を求める子供、保護者の増加が著しい

所 感

どれ一つをとっても細心できめ細やかな支援体制をとっているのが一目瞭然ではあるが、ここにも後継者不足のあおりを受けていると聞いた。